

鹿嶋市立鹿島中学校 三年

私を守りたいもの

木^き内^{うち}愛^め唯^い

あなたには守りたいものがありますか。私にはずっと守り続けたいものがあります。それは、妹の笑顔です。私には、小学三年生の妹がいます。妹には生まれつき発達障がいがあり、自分の気持ちを周りに上手に伝えられなかったり、特定分野の勉強が極端に苦手だったり、落ち着きがなく集団行動が苦手といった症状があります。

妹が発達障がいの診断を受けたのは、私が小学五年生の時でした。その時、私は「どうして私の妹が…。」とどうしたらいいのか分からない気持ちでいっぱいになり、涙が止まりませんでした。「障がい」という言葉だけがずっと頭の中をまわり、思い描いていた未来が不安と悲しみで埋め尽くされました。

妹が小学校に入学して、新しい環境になり、勉強も始まっ

て、一番苦手とする「初めて」が増えていく中で、私は正直、「みんなと一緒に学校生活を送れるのだろうか。出来ないことでみんなにいじめられたりしないだろうか。」と不安で仕方ありませんでした。しかし、初めは「学校に行きたくない。」と言っていた妹も、みんなと一緒に学校生活を送るために、毎日コツコツと授業の予習復習、家の手伝い、コミュニケーションを積極的にとるなど自分なりの努力を重ねていきました。その成果がだんだん発揮されてきたのか「ねえね、学校楽しかったよ！」と笑顔で帰ってくるようになりました。私は「辛いことがあっても笑顔でいられるってすごいな」と妹の笑顔に救われ、とても励まされました。自分自身、上手いかなことがあって落ち込んでいた時に妹の笑顔を見ると、「妹も頑張っている。私も頑

張ろう。」と前向きに思えるようになりました。そして妹を学校で支えてくれている学校の友達や先生方への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

現代社会では、十人に一人は発達障がいがあるといわれています。発達障がいとされる子どもが急増している理由の一つに、多くの人に認識されるようになったことが挙げられています。インターネットの情報や書籍も増え、情報にアクセスしやすくなったこともあり、発達障がいの疑いのある子どもの受診率が上がっているそうです。

私は「発達障がい」についてもっと一人一人の理解が必要だと感じています。発達障がいがある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのがとても苦手です。その行動や態度は、自分勝手とか変わった人と誤解され、敬遠されることも少なくありません。その原因が、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障がいによるものだと周囲の人が理解すれば、接し方も少しは変わってくるのではないのでしょうか。

「障がい」は「個性」であり、みんな同じ人間です。全ての人が障がいの有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら、理解を深めていく必要があります。だから偏見と差別はあってはならないので

す。私は「障がい」のあることが「可哀想」だと思ったことは一度もありません。そして「障害」の「害」という字が私は嫌いです。「害」ではないからです。

私の妹は、感受性豊かで、心が真っ直ぐで、とても明るい、私にはない素敵なものをつくさん持っています。そして家族をいつも笑顔にしてくれます。いつも家族の中心に妹がいて、みんな妹が大好きです。だから妹の素敵な笑顔が絶えないように、私は妹の一番の理解者でありたいと思っています。辛いことがあったら、いつでも抱きしめてあげたいです。嬉しいことがあったら、そばで一緒に喜びたいです。これから先、もっともっと発達障がいへの理解が深まって、全ての人が「生きやすい社会」になることを私は願っています。そのためにまだまだ課題はありますが、私は将来、医療関係の仕事について少しでも「生きにくさ」を感じている人たちの架け橋になればと思っています。私は今日も妹の笑顔に救われています。その笑顔がこの先もずっと続いていきますように。

